

### 事例3

## 患者さんと豊かな交流を育む患者会

「松尾クリニック(大阪府)」



院長 松尾美由起先生



インターネットの検索で見つけた、ちょっとびっくりするような患者会の活動記事。そこには、医療プラスチックで患者さんとの関係を形成し、患者さん満足を醸成していくヒントがあるように思えました。

さっそくインタビューをお願いし、「OK」という回答をいただいた時、事務長さんから「前日に、院で生花教室を行っています。いらっしゃいますか？」と聞われました。これは願ってもないお話だと思い、「伺います」と二つ返事で大阪は八尾市へ。インタビュー前日の午前中に「松尾クリニック」を訪ねると、何と、生花教室は待合室で実施。会議室など別室を使つての活動とばかり思っていた私は、驚き半分・楽しさ半分でその様子をカメラに収めさせていただき、更なる興味を掻き立てられつつ翌日、ふたたび同クリニックを訪問しました。

そして、院長の松尾美由起先生に、同クリニックの掲げる「患者に近づき、患者と育てる医療」に立脚した患者会についてインタビューを行いました。





病舎で、月に1回行われる生活教室。患者さんが気軽に参加しています。指導役はボランティアの方で「フラワーセラピー」としてやっています。楽しいですよ」とおっしゃっていました。



から在宅医療に力を入れてきたことで知られています。1996年に訪問看護ステーション「来夢」を開設し、共同で60〜80名の在宅患者さんに対応しています。

しかも、以前から24時間対応の体制を敷いて、患者さんを見守ってきました。

ます。診療の時間も患者さんから、「医者の前に行く」と緊張する。でも、松尾先生の前では緊張しない」と言われます。そういう関係を目指しているの、「良かった」と思います。

実は、松尾クリニクは開業当時

また、2003年にはクリニクを移転し、パワーハビリに取り組むフロアを開設しています。しかも、そのきっかけは患者さんからの要望だったそうです。

ここでは、非常に充実した患者会の運営にスポットを当てましたが、松尾先生とすれば、患者会は目指してきた医療の一つの産物ということかもしれませぬ。

そうであったとしても、取材を行った私としては、患者さんと病院が診療以外にも幅広くお付き合いできる方法として、患者会は大きな可能性を持っているという感触を得ることができました。

#### 医療法人松尾クリニク

内科・循環器科・消化器科・リハビリテーション科

●所在地・大阪府八尾市北本町2-15-26

●人員体制・医師4名(内、非常勤2名)／看護師13名(内、パートタイム4名)／事務8名(全員非常勤)

その他スタッフ・ケアマネージャー2名、PT1名、ST1名、介護士4名、臨床検査技師1名、運転手3名、栄養士1名